

えさし



大阪役所前から約2.1kmのコースを行進

100人の踊り手が隊列を組んで踊る江刺鹿踊「百鹿大群舞」が、10月8日に大阪市で開かれた国際イベント・御堂筋パレードに出演しました。「世界をつなごう」をテーマに、世界各国の民族舞踊、日本を代表する郷土芸能、地元小中学生の団体など約1万人が大阪中心部を踊りながら行進し、沿道を埋めた観客を魅了しました。

江刺鹿踊の同パレード出演は平成16年に次いで2度目。前回出演後に行われた観客のアンケート調査結果で「また見たい団体」の1位となったことから、主催者からの強い招請を受けての登場となったものです。

江刺鹿踊が御堂筋パレード出演
百鹿大群舞が浪速っ子魅了

まちの話題



ころもがわ

世界遺産にふさわしい地に

前沢・白鳥地区で景観整備



草刈り作業に汗を流す住民

前沢区の白鳥地区住民協議会（鈴木正侃会長）による白鳥川河川清掃が10月22日早朝に行われ、地域住民約150人が堤防内の草刈りや雑木の伐採などに汗を流しました。

この取り組みは、世界遺産候補地の白鳥館遺跡を抱える同地区が、歴史にふさわしい自然豊かな住みよい地域を目指した「白鳥地区地域おこし事業」の一環として行われたものです。参加した住民は、刈払い機や草刈がまなどで雑草や雑木を刈払い、8月に続く2回目の作業で、以前とは見違えるほどの明るい景観に生まれ変わりました。

まえさわ

衣川の特産物まるごと集合

ガルギールやハトムギをPR

衣川まるごと市場（同実行委員会主催）は10月21、22の両日、JA岩手ふるさと物産館特設会場で行われ、多くの人たちでにぎわいました。

この催しは、「衣川の商店街にたくさんの人を呼び込もう」ということを目的に、地元有志が声掛けをして始まったもので、ことして5回目を迎えます。会場では、衣川特産のガルギールとハトムギのPR・販売のほか、同区の商工業者や農家の皆さんが新鮮な旬の野菜や海産物を販売。また子どもたちによるよさこいソーランや剣舞の披露など、さまざまなイベントも行われ、訪れた人たちは衣川の秋を満喫していました。



人気を集めた郷土芸能披露

野生生物すめる環境を守る

若柳のため池にメダカを放流



メダカを放流する子どもたち

10月9日、胆沢区若柳の内田ため池で、同地区の子どもたちがメダカの放流を行いました。

メダカは、絶滅の恐れや、保護が必要な野生生物などを掲載する「レッドデータブック」で、絶滅の危険が増大している種とされています。自然豊かな県内でさえ、年々その数が減っているといわれています。

内田ため池のメダカは、圃場整備に伴う生態調査で生息が確認されたものです。子どもたちは、岩手大学農学部の広田純一教授からメダカについて学んだ後、同じ池で捕獲したものから繁殖させた約80匹の稚魚を池に放流しました。

いさわ

市民の未来への思いを礎に

胆沢ダム建設工事で定礎式



大型フルドーザーによりダム堤体基礎部分に埋め込まれる礎石

胆沢区若柳地内に建設が進められている胆沢ダム建設工事で定礎式は10月15日、関係者約1,300人が出席し、現地で行われました。

この工事は昭和63年4月に事業に着手。昨年秋からはダム堤体基礎部分の盛り立てが進められてきました。式典は、工事関係者や土地提供者、胆沢ダム工事の完成を待ち望む市民などが見守る中、工事の安全と早期完成を願って礎石が据えられました。また、参列した胆沢地区の小学生170人が、未来の胆沢ダムや地域への思いを石に書いた「メッセージストーン」を埋め込みました。

国土交通省胆沢ダム工事事務所によると、堤体の盛り立てはこの日までに全体積の約17%に達しているとのこと。この式典を機にダム建設工事は、平成25年度の完成に向けて最盛期に入っていきます。

みずさわ

熱々の芋の子汁に長蛇の列

奥州水沢グルメまつり

18回目を迎えた奥州水沢グルメまつり（同実行委員会主催）は10月22日、秋晴れの下、水沢公園広場で開かれ、ジャンボ鉄鍋で調理された芋の子汁が来場者に振る舞われました。

使われた鉄鍋は、直径3.5m、深さ80cm、重さ5tもある大きなもので、鉄鍋としては日本一の大きさです。食材には地元産の里芋500kg、長ネギ100kg、鶏肉180kgなどが使われ、水沢調理師会会員らによって6000食分の芋の子汁が調理されました。長蛇の列をつかって待ちわびた来場者は、熱々の芋の子汁をほお張りながら、深まる秋を感じている様子でした。



日本一の鉄鍋で作られる芋の子汁